

通信小海

朽ちるお金



牧師 水草修治

(前号の続き)

お金は朽ちず、かえって利子で増えていくという不自然な性質を与えられているので、「不景気になる お金を使わない さらに不景気になる 使わない・・・」という悪循環に陥る。どうすればよいか。お金から永遠性・増殖性を剥ぎ取って、時間がたつと減価するという仕組みにすればよい。かりに月頭に一万円のお金が、月末には九千円の価値になってしまふとなれば、誰だつて価値があるうちに使おうとする。そうすれば貨幣が社会に循環し景気がよくなる。

お金に与えられたもう一つの不自然な性

今月の御言葉

「あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」

マタイ六章二十四節

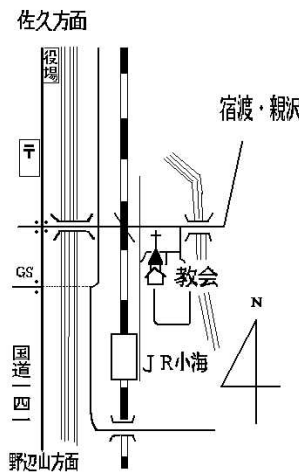
日本同盟基督教団 小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七

〒三八四一一 二二 二六七九二四七七六

〒振替 〇〇五三〇 〇 六一六八三

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 朝礼拝 午前十時から十一時半
夕礼拝 午後七時半から八時半

*海尻・川上・南相木・甲斐大泉で毎月「
集会をしています。」

個人的な聖書勉強や個人的なこ
も乗ります。

質は普遍性つまり、どこでも通用するという
ことである。だからこそ便利なのだ、その
性質のゆえに、たとえば本社を東京に置く会
社が南佐久郡に大規模店舗を建てて営業す
ると、お金はみな東京に持っていかれる。こ
うして東京は肥え太り、地方はやせ細る。
シルビオ・ゲゼルという経済学者は、「自
然的経済秩序」という理論のなかで、地域通
貨というものを考案した。その通貨は時間と
ともに価値が減り、特定地域でのみ使える。
オーストリアのチロル地方の人口四千人ほ
どの町では、ゲゼルのいう地域通貨を発行し
て、瞬間に不況のどん底からはいあがつ
た。市民はわれ先にと税金を納め、荒廃した
町の道路や建物もきれいになり、産業も商業
も活性化した。その通貨の流通スピードは、
中央銀行の出した通貨の十四倍だったそう
である。

長野県建設部須坂建設事務所の宮本吉寿

さんは、この減価する地域通貨システムを景気浮揚策として採用するように、このたび村井知事に建白書を提出した。資金としては、このたび実施されようとしている定額給付金をあてるといふ。時とともに減価する地域通貨が流通すれば、ふつうのお金を持つ欠陥をおぎなうて、経済を健全化することになる。

* * *

聖書によれば、天地万物の創造主である神のみが、無限・永遠・普遍のお方であり、自然物はみな有限者にすぎない。あなたにはわたしのほかに、他の神々があつてはならない。「神ならぬものを神とすることは、創造主なる神の意志と神が立てた秩序にそむくことなので、かならず問題が生じるのである。

ところが、利子がつく貨幣というシステムにおいて、前回と今回見てきたように、私たちは、あたかも貨幣が神であるかのようになり、これに無限・永遠・普遍という性質を与えてしまっている。そして、そのことが蓄財・都市と田舎の経済格差・南北世界の経済格差・飢餓・経済バブルの発生と

膨張と破裂と恐慌という問題を引き起こし、また、なんでもカネに換算してしまう金銭普遍論が、自然環境も食品の安全も人の命も犠牲にしてカネをむさぼる風潮を生み出している。

紀元三十年四月のある日、イエスはエルサレムで十字架にかかって私たち人類の罪からの救いのために死を遂げようとしておられた。主の深い悲しみ察知したマリヤは、イエスにナルドの香油を惜しげもなく注いだ。すると、それを見たユダという弟子は言った、「この香油なら百五十万円はするじゃないか。もつたいない。」ユダは、彼女の信仰と愛をカネに換算したのである。愛や信仰がどうしてカネに換算できようか。

人から贈り物をもらったとき、これはいくらかななどと換算してしまう癖があるならば注意したほうがよい。人生、カネがすべてではない。もつとはるかに大事なものがあ



野宿者支援報告会

ご協力を感謝します。あちらこちらからお米が寄せられて、会社を放り出されて困窮している方たちの心とからだを温められます。三月に報告会があります。

3月7日(土)午後1時～4時

佐久勤労者福祉センター第2会議室

参加費無料

申込み 090・1436・6334(午前中)

送付先 小海キリスト教会にお持ちくださるか、南牧村社協へ。

〒384-1302 南牧村大字海ノ口966 1

5 南牧村社会福祉協議会気付 山谷農場

* 着払いによる送付はご遠慮ください。荷札に「木曜午後送付希望」とお書きください。

山谷農場事務局(藤田 寛)小海町芦谷ヒルサイ
ドコーポ 一 二号室毎週金曜・土曜はあります。

電話090 1436 6334

〒384-1302 南牧村大字海ノ口966 1

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

カンパテ振替 二四 四五三七九六

「アブラハムの生涯」 とりなし祈る



「ソドムとゴモラの叫びは非常に大きく、また彼らの罪はきわめて重い。」

主なる神が、厳かにこう言われるのを鼓膜の内側に聞いて、アブラハムは鳥肌が立った。念頭に浮かんだのは、甥のロトのうしろ姿である。二十年前、家畜のための水場・草地争いをして、背を向けて出て行ったあのうしろ姿が。幼くして父親を失ったロトは、おじであるアブラハムを父親のように慕い、また子どももないアブラハムはこの甥をわが子のように思っただかかわってきた。この約束の地への旅立ちにも、ロトは同行してきた。だが、アブラハムと経済的問題でトラブルが生じると、ロトはさっさと低地の有利な地を選んでおじに背を向けて出て行ったのだった。そして行った先が、背徳の町ソドムであった。

主がソドムに審判を下そうとしておられ

るのを知って、アブラハムは神の前にひれ伏して叫んだ。

「あなたはほんとうに、正しい者を、悪い者といっしょに滅ぼし尽くされるのですか。もしや、その町の中に五十人の正しい者がいるかもしれません。ほんとうに滅ぼしてしまわれるのですか。その中にいる五十人の正しい者のために、その町をお赦しにはならないのですか。正しい者を悪い者といっしょに殺し、そのため、正しい者と悪い者と同じようになるといふようなことを、あなたがなさるはずがありません。とてもありえないことです。全世界をさばくお方は、公義を行うべきではありませんか。」

すると、主は答えられた。「もしソドムで、わたしが五十人の正しい者を町の中に見つけたら、その人たちのために、その町全部をお赦そう。」

ところが、主の答えを聞くと、アブラハムは不安になった。いや正しい者などあの町に五十人もいないかもしれない。四十五人ならどうです。いや三十人なら、いや二十人なら、そしてついに十人ならどうですかとアブラハムは、神に対して値切りに値切った。

すると主は仰せられた。「滅ぼすまい。その十人のために。」主も、このソドムを滅ぼしたくて滅ぼされるわけではない。主も惜しんでおられたのである。ソドムの町は悪に満ちていたが、それでもなお主はできるならばソドムを救ってやりたいと惜しまれた。

アブラハムは、命乞いが成功したものと思つて、自分の天幕に帰ると床に就いた。ところが翌早朝、アブラハムはからだに地鳴りと激しい揺れを感じた。「しまった。ソドムには、ただの十人も正しい者がいなかったのだ！」と叫んで天幕を飛び出した。低地が一望できるところに来て、ソドムとゴモラのほうを見おろすと、見よ、まるでかまどの煙のようにその地の煙が立ち上っていた。「ロトー！」アブラハムが声のかぎりに叫んでも、だれも答える者はなかった。

しかし、実はロトは救われていた。「神が低地の町々を滅ぼされたとき、神はアブラハムを覚えておられた。それで、ロトが住んでいた町々を滅ぼされたとき、神はロトをその破壊の中からのがれさせた。」とある。

主は、信じて祈る者の祈りをむなしくされないのである。

中学卒業の頃には

スラスラと



今年も中学の生徒たちが、それぞれの志望校へと巣立っていくことになった。中学一年生から週に一回一時間ほど、英語を学んできた子どもたちである。昨年末には、英米の小学低学年生用のベッドタイムストーリー一百ページを楽しく読み終えて、今は *Fly Away Home* (邦題グース) という父と娘と雁のひなたたちとの交流を描いた映画のストーリーブックをほとんど日本語に訳す必要なく楽しく読んでいる。昨年春に卒業した生徒は三年生の秋口からやさしい英語で書かれた五十ページほどのリーダーを卒業までに五冊ほど読み上げた。

この子たちが語学の天才だったわけではない。ごく普通の中学生たちである。教え方が特別上手というのでもないと思うのだが、週一回やっていると中学の英語教科書は、だ

いたい二年生の冬頃には終わってしまった、三年生の一学期から文法事項の整理と並行して、段階ごとに語彙を制限した読み物GRに入っていくことになる。冒険談・ミステリー・伝記などの読み物は教科書よりもはるかにおもしろい。

こんなふうにして学ぶと、子どもたちは普通中学三年生の三学期には、やさしいリーダーならば、いちいち訳さずスラスラと楽しく読めるようになる。理解がむずかしそうなどころ、よく使う言い回しとか、文法事項などをときどき確認してやるだけである。

ともかくにも出版社名・筆者名も英語だけで書かれた本を一、二冊読み終えたというだけで、中学生は自信がつく。それを三冊、五冊と重ねていくと、自信とともに実力もついている。日本語の読書は苦手でも、英語の読書がおもしろいというから不思議である。

英語学習に、せっかく貴重な青春の時間とエネルギーを費やすのなら、楽しくて、一生役に立つ力がつく勉強法でなさるようにお奨めしたい。

読む・書く・考える

私たちは考えるとき、ことばを用いて考えている。ために今ことばを用いないで考えてみて欲しい。・・・なにも考えられないだろう。

多くの生き物のなかで、ただ人間だけが文明を築くことができたのは、人間だけが複雑なことばを用いることができるからである。ことばは神が人間にくださった賜物である。

読み、書き、考えることは、大げさでなく私たちの人間としての営みの基本である。学習という範囲に限ってみても、国語力は数学も理科も社会も、読み・書き・論理的に考えることが基本である。というわけで、国語トレーニングクラス(中一 中三)も一生役に立つというわけである。

新中学一年生募集

定員 7名

連絡先 電話九二 四七七六